

2.0.1 イントロダクション

赤池伸一* 城山英明†

2020年10月21日

リード文

科学技術イノベーション政策のガバナンスの側面から、本章の趣旨を述べる。

キーワード

科学技術イノベーション政策、ガバナンス、プロセス、アセスメント

本文

科学技術イノベーション政策の対象や範囲については、0章で扱ったように、科学、技術及びイノベーションは、元々別の概念であるが、現在では「科学技術イノベーション政策」という政策領域が認められるようになってきたところである。また、その国毎に科学技術イノベーション政策の体制は様々なものがある。

本章では、科学技術イノベーション政策について政策のガバナンスの視点からこれを扱う。科学技術イノベーション政策は多様な社会的含意をもち多様なアクターへの資源配分に関係する。そのため、伝統的な政府（government）だけでなく政府以外の幅広いアクターも含めた組織との水平的関係を念頭においた、社会的判断機能や仕組み・制度設計、すなわち「ガバナンス（governance）」の設計が求められる（城山英明, 2007）。

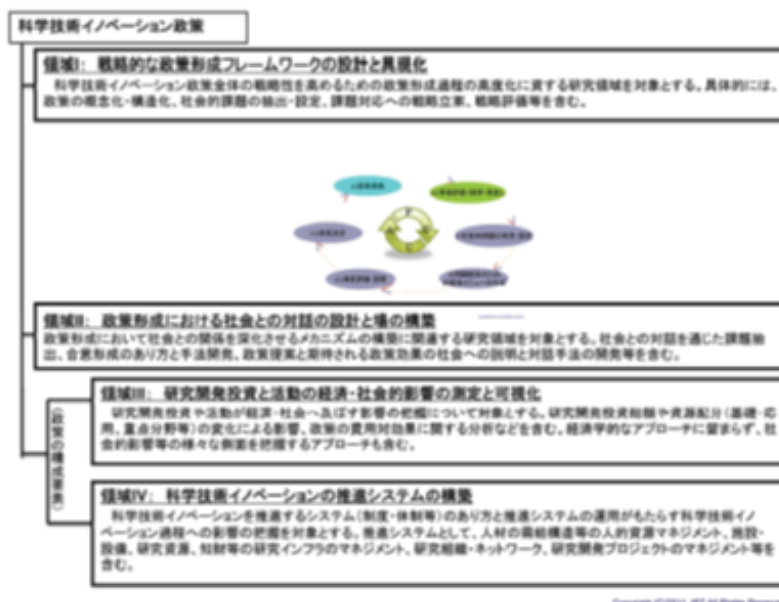
SciREX は「政策の科学」と「政策形成プロセス」の共進化を目指したものであり、科学技術イノベーション政策の効果を分析するのみならず、その立案、実施、評価等のプロセス全体をガバナンスの視点から分析することが、政策に関する研究成果を政策形成の現場で実践する上でも重要である。

SciREX プログラムの構想の基礎となった CRDS の政策提言である「(戦略プロポーザル) エビデンスに基づく政策形成のための「科学技術イノベーション政策の科学」構築／CRDS-FY2010-

* 科学技術・学術政策研究所上席フェロー、文部科学省科学技術・学術政策局付、内閣府参事官

† 東京大学法学部・公共政策大学院教授

SP-13」CRDS (2011) においても、研究領域の一つとして「戦略的な政策形成フレームワークの設計と具体化」を明記している。



城山英明 (2013) では、科学技術イノベーション政策を政治学的観点から分析する際の課題について整理を行っている。城山は、ガバナンスを分析する際の視角として、「政治学観点として、政治的判断を伴う裁量的判断がどこに埋め込まれているか、そのような政策の仕組み・制度がとられる原因を経験的に明らかにすることも基礎作業として重要である。」旨を指摘している。また、Spolsky and Taylor (2010) は、社会にはイノベーションによって恩恵を得る者と被害者の双方があり、政府は様々な利害関係者間の調整を行う役割を担うとの立場でとらえ、政策のデザイン、経過、実施に際しての影響を考慮する必要があるとしている。

本章では、まず、STI 政策の正当性と科学技術ガバナンスの必要性を整理するとともに、STI 政策の手段、複雑な STI ガバナンスの構造、プロセス、科学技術ガバナンスの各段階におけるツール、政策執行におけるアクター間関係のガバナンス、ガバナンスと組織のイノベーションについて概説する。

References

- CRDS (2011). (戦略プロポーザル) エビデンスに基づく政策形成のための「科学技術イノベーション政策の科学」構築 (CRDS-FY2010-SP-13) . <https://www.jst.go.jp/crds/pdf/2010/SP/CRDS-FY2010-SP-13.pdf>.
- Spolsky, H. and Taylor, M. (2010). Politics and the Science of Science Policy. In *The Science of Science and Innovation Policy: A handbook*, pages 31–55. Stanford Business Books. <https://www.sup.org/books/title/?id=18746>.
- 城山英明 (2007). 科学技術ガバナンス. 東信堂. <https://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-01>

-9784887137899.

城山英明 (2013). 科学技術イノベーション政策の政治学 (<特集> 科学技術イノベーション政策の科学). 研究 技術 計画, 28(1):23-36. https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsrpim/28/1/28_KJ00008954046/_article/-char/ja/.